

令和元年度

秋田産業サポータークラブ

企業振興育成WG 活動報告



2020.02.03

活動①

■定例会

本年度は5回の開催(3月は予定)。県の施策への意見交換や提言、グループメンバーの提案による他組織との連携、新たに取り組むテーマなどを中心に議論を継続。特に、秋田県の産業振興に欠かせない人財確保や育成。これにどういった取り組みが必要かを大きなテーマとする。

1月31日は、その一環として、人材不足や人財確保のヒントや新しい取り組みの一つとして関心がたかまっている「関係人口」を中心に特別勉強会を開催した。

実施実績	内容
① 5月14日	定例会
② 9月10日	定例会
③ 10月16日	定例会
④ 11月26日	定例会
⑤ 1月25日	第8回 あきた寺子屋
⑥ 1月31日	特別勉強会(ソトコト編集長 指出一正様)
⑦ 3月	定例会(予定)

活動②

第8回 あきた寺子屋の開催

令和2年1月25日(土)実施

首都圏在住者に向けた「起業創造塾」としてスタート。
「夢づくりWG」と合同開催。
「秋田で起業を志す人」から「秋田で働く・関心がある人」「秋田と何らかの形でつながっていたい人」に対象を拡げて、秋田出身に拘らずに実施。
本年度は、秋田を元気にしたいと移住したり起業したりする人たちをさらに強かにバックアップするため、首都圏で秋田のためにいろんな活動をしている人たちに声をかけ、お互いに連携しあって秋田の活力を高めようという狙いを持った。
年1回開催のイベントを、継続的な活動や情報発信の場として発展させていく。今回はそのきっかけとなる場と位置付けた。

多くの参加申し込み
一緒に活動する申し出をいただいています
(参加申し込み総数130名超え！！
1月15日現在)



2

企業振興育成WG

活動③

秋田 IT Café in Tokyoの開催～定着

秋田経済の全体、そしてIT産業やIT人材の活性化を目的に、情報の交流を通じてさまざまな可能性を図り、新しいムーブメントを創る

情報の交流の場(集う場、学ぶ場、お互いを知る場)

(敬称略)

回数	開催日	テーマ	スピーカー	所属(開催時)
第7回	4月9日	秋田県eスポーツ協会設立について	須藤晃平	(株)エスツー代表取締役、秋田県eスポーツ協会会長
第8回	6月11日	地方創生におけるAI活用の本質	佐々木俊	(株)野村総合研究所 上級コンサルタント
第9回	8月20日	ITで変える、いい日本へ	九島正広	東北ITBook株式会社 取締役
			岩本高佳	ITBook株式会社執行役員、東北ITBook株式会社取締役
第10回	10月8日	ICTを用いた秋田活性化プラン	村上知広	株式会社Eidea 代表取締役CEO
第11回	12月10日	データ活用でヘルスケアを成長産業に	木村裕一	BioICT株式会社 代表取締役
第12回(予定)	2月18日	未定	山田大祐	経済産業省情報技術活用推進課

3

企業振興育成WG



報道関係者各位

ニュースリリース 2020年2月6日

秋田県仙北市で本格的ワーケーション事業開始

**一東北 I T b o o k、わらび座、秋田県、仙北市、創生する未来の官民一体で事業を推進
仙北市をはじめとする秋田県内全域で、全国の企業・団体を対象にワーケーションを誘致**

2020年、東京オリンピックの開催や企業の働き方改革としてテレワークが推進される中、ワーケーションが注目されている。首都圏の企業が地方で仕事を行い、さらに休暇も同時にとれるような、ワークとバケーションを兼ねた働き方である。ここ秋田県仙北市でも、演劇を中心とする総合文化レジャー施設「あきた芸術村」を活用したワーケーション事業を本格的に開始する。

ワーケーション事業によって、人口減少、経済縮小傾向にある秋田県に首都圏の企業を誘引し、秋田県の経済振興の突破口となることが期待される。特に労働人口を増やし、秋田県を働く場所として提供することを重視する。

仙北市における今回のワーケーション事業は、単なるテレワークの拠点ではなく、働く人の休暇やリフレッシュの他、わらび座の持つシアターエデュケーション（演劇メソッド活用の研修）などの独自研修の企画も含む。これは全国初の試みとなる。

2020年は10社200名の誘引計画

今回のワーケーション事業では、2020年に首都圏ITベンダーを中心に10社、200名程度のワーケーション実績を計画している。営業は東北 I T b o o kとわらび座によって首都圏を中心に行い、またわらび座の有する全国の旅行代理店などのチャネルも活用する。広報・マーケティングは独自メディアを保有する創生する未来が担当する。ワーケーションのエリアはわらび座のある仙北市で開始し、今後秋田県内全地域も候補とする予定。

2019年12月には、首都圏の大手ITベンダーのNECが、ワーケーションのテスト合宿を実施し、高い評価を得ている。同社の幹部を含め約10名が参加し、テレワークによる本社とのテレビ会議と各自のテレワーク業務を実施。わらび座の独自の演劇研修「シアターエデュケーション」も受講した。コミュニケーションや共感力向上のための研修だが、受講者からは大きな共感が得られた。同社は2020年に向け再度のワーケーションテストを同地で検討中。

費用は実費以外では1人あたり数万円で、カスタムでワーケーション企画

ワーケーションの費用は、個別の企業に対して、交通費、宿泊、研修費用などの実費と企業独自の目的に応

じて、固有のメニューを設計して行う。基本的には費用は実費以外では1人あたり数万円を想定。終了後のアンケート分析やレポート作成の他、地元の自治体や経済団体、企業とのマッチングの対応などにも、個別の相談に応ずる。当面は自前の施設「あきた芸術村」を活用するため、費用は安価で提供が可能。

〈ワーケーション事業の実施エリア〉

ワーケーションは「あきた芸術村」が有する以下の8つの施設を活用して実施する。

いずれの施設も無料のwifiが完備されている。

1. Semboku Complex（テレワークセンター、ビジネスセンター）
2. ゆぼぼ（宿泊施設、温泉、地ビールレストラン）
3. ゆぼぼ館内の会議施設・宴会場（テレワーク実践、会議）
4. エコニコ農園（ワーケーションの農業体験）
5. 工芸館（ワーケーションの工芸品制作体験）
6. わらび座けいこ場（シアターエデュケーション、わらび座劇団員による社会人研修）
7. 奥羽山荘（本格的合宿研修）
8. わらび劇場（大ホール、小劇場のイベント会場利用）

—Semboku Complex 本日 2/6、正式オープン

Semboku Complex（センボクコンプレックス）は2019年に秋田市に設立したITコンサルティング企業の東北ITBOOKが運営主体となる。同社はワーケーション事業用の拠点を昨12月に同所に開設した。そしてあきた芸術村を経営する劇団わらび座とともにワーケーションの企画、運営、営業提案を全国の企業/団体を対象に実施する。また秋田県、仙北市、そして地域支援を行う一般社団法人創生する未来とも連携している。

またSemboku Complexはワーケーション事業推進の他、ビジネスセンターとしての機能も有しており、コワーキングや起業のための創業支援※や一般企業のためのマーケティング支援などのビジネスサポート事業も行う。

「営業時間」

営業時間は月曜日から金曜日。

10時から17時まで（予定）。

祝祭日は基本的に休み。

※ちなみに昨年まで田沢湖駅前にあったビジネス支援拠点「TAZAWAKO ベース」が担っていた創業支援を中心とする機能を、Semboku Complexがそのまま引き継いで実施することになる。什器類も移設して利用している。

「ワーケーション事業担当」

・Semboku Complex（センボクコンプレックス）

〒014-1192 秋田県仙北市田沢湖卒田字早稲田 430 あきた芸術村 ゆほぼ隣り

FACEBOOK <https://www.facebook.com/SembComp/>



「問い合わせ先」

東北 I T b o o k 株式会社

〒010-8506 秋田県秋田市東通仲町 4-1 秋田拠点センターアルヴエ 14 階

URL : <https://www.t-itbook.co.jp/>

Tel 018-838-0238 Fax 018-838-0239

「協力」

一般社団法人創生する未来

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-13-10

URL : <http://souseimirai.jp/>

※ワーケーション：ワーク+バケーションを組み合わせた造語。テレワークを、自然環境の良い地域で行う、仕事と休暇を組み合わせた新しい働き方。特に 2020 年の東京オリンピックによる様々な規制により、首都圏の企業が地域へ出向いて働くことが必要となり、ワーケーションが注目されている。

東北 I T b o o k 株式会社

2019 年 5 月に秋田市で設立された地方自治体を中心とする IT コンサルティングを行う企業。親会社は I T b o o k。代表は恩田 饒（I T b o o k 株式会社代表取締役社長兼 CEO）。

〒010-8506 秋田県秋田市東通仲町 4-1 秋田拠点センターアルヴエ 14 階

URL : <https://www.t-itbook.co.jp/>

株式会社わらび座 Wikipedia より（編集お願いします）

劇団・劇場経営のほか、温泉、ホテル事業、地ビール「田沢湖ビール」の製造販売など多角的な経営を行なっている。秋田県仙北市の「あきた芸術村」に本拠地を置いている。本拠地には「わらび劇場」という本格的な常設劇場を持ち、オリジナルミュージカル公演年間 250 ステージをおこなうほか、7 つの公演チームが国内、海外で年間約 800 回の公演を行っている。

〒014-1192 秋田県仙北市田沢湖卒田字早稲田 430 あきた芸術村

URL : <http://www.warabi.jp/>

「各界からの賛同文のご紹介」

「エンドースメント」各 200 字程度

例文)

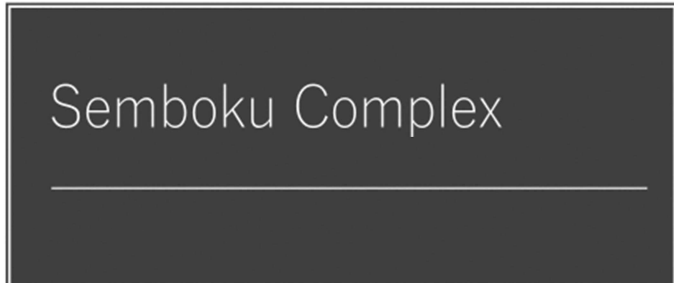
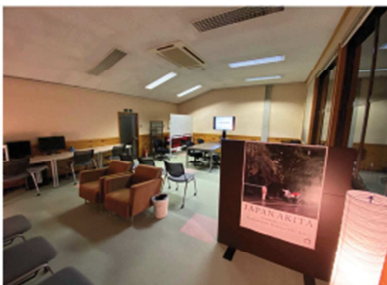
一般社団法人創生する未来 代表理事 伊嶋謙二

秋田県におけるワーケーションの本格的な展開を期待しております。特に本年はオリンピックイヤーで、首都圏から地域でのテレワークが必須の状況なので、是非 Semboku Complex を中心としたワーケーションに大いに期待しております。またわらび座の持つ文化芸術活動と温泉、地ビールレストラン、農園などのリソースを活用した他にない優れた特徴のあるワーケーションを演出して欲しいと思います。(197 文字)

1. 秋田県産業労働部デジタルイノベーション戦略室長 羽川彦禄氏
2. 仙北市市長 門脇光浩氏
3. わらび座 代表取締役社長 山川龍巳氏

「都会では感じられない驚きの星空、吹き渡る清涼な風…。大自然の四季の美しさの中で、温泉や田沢湖ビール、ミュージカルや祭り体験など、五感を震わせる感動を提供できるのが、あきた芸術村です。ぜひファミリーでおいでいただき、秋田の思い出が親子で語り合える、そんなワーケーションのお手伝いをしたいと考えています。」

4. NEC プラットフォームソリューション事業本部長 本永実氏



「記者会見のご案内」

秋田県ワーケーション連携事業発表と Semboku Complex 開設記者会見

日時：2020年2月6日 木曜日 11時～12時

掲題の記者会見を仙北市あきた芸術村「Semboku Complex」で行います。

ご参加の報道関係者の方は、1月31日までにご出席のご案内を以下にご連絡頂ければ幸いです。

アジェンダ

1.事業の説明 東北 I T b o o k、Semboku Complex 責任者 伊嶋謙二

2.関係者のご挨拶

秋田県産業労働部デジタルイノベーション戦略室長 羽川彦禄氏、

仙北市市長 門脇光浩氏、

わらび座 代表取締役社長 山川龍巳氏、

NEC プラットフォームソリューション事業本部長 本永実氏（あるいは塩津進氏）

3.質疑応答

4.写真撮影

「出席者」

Semboku Complex 責任者伊嶋謙二、秋田県産業労働部デジタルイノベーション戦略室長 羽川氏、仙北市市長 門脇光浩氏、わらび座 代表取締役社長 山川龍巳氏、NEC プラットフォームソリューション事業本部長 本永実氏（あるいは塩津進氏）

「報道ご参加情報」

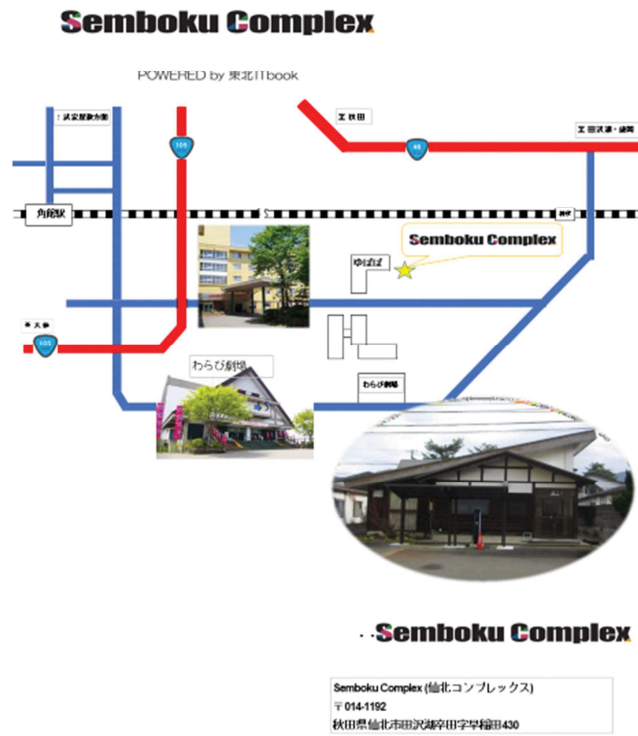
媒体名：_____

部署：_____

氏名：_____

連絡先：_____

アドレス：_____



「連絡先」

東北ITbook株式会社
〒010-8506 秋田県秋田市東通仲町 4-1
秋田拠点センターアルヴェ 14 階
担当：伊嶋謙二
ishima@t-itbook.co.jp
080-3454-1983
URL：<https://www.t-itbook.co.jp/>
Tel 018-838-0238 Fax 018-838-0239

地域連携観光WG 2019年次報告

1

ターゲットを見据えて 長く光を放ちうる素材の選定

I. 日本人（団体）

金遣い：安い

宿泊：なし

観光形態：バスで立ち寄り

季節：春から秋

イベント時のポイントでしか訪れず、金遣いはほとんど無い＝市に落ちるお金は低い

II. 外国人（団体）

金遣い：アジア系は少ない

宿泊：圏域で1泊

観光形態：バスで立ち寄り

季節：春から秋、冬も

イベント時のポイントでしか訪れず、金遣いは日本人よりある＝市に落ちるお金は低い

III. 日本人（マニア）

金遣い：一部のマニアは、高くてもそこにしかないものを求める、exp鉄道マニア

宿泊：目的を達成するために長くも短くもある

観光形態：公共交通機関

季節：来たいとき、最も旬なとき

個人の満足を満たすために使う金は大きい＝市に落ちるお金は多い＝対象物が深いと何回も来る傾向にある

IV. 外国人（マニア）

金遣い：EUからの客は教養もあり高くてもいいものを求める

宿泊：はるばる来るので長い

観光形態：公共交通機関

季節：求める季節による

個人の満足を（教養を満たすものを提供できれば）のために使う金は大きいがシビアな選択＝市に落ちるお金は多い＝他国との比較になる

普遍性の持ったものを発掘し磨き上げる

普遍性とは？ 秋田にしかないもの

- ・伝統をもつもの
- ・秋田県北部の街にしかないもの
- ・秋田を代表するもの
- ・秋田に由来するもの
- ・秋田と名のつくもの
- ・この地域を表すもの

大館市未来街作りについて.pptx

第一次の光 多くの人に深く受け入れられるもの

- 秋田杉
- 秋田ふき
- 秋田犬
- 比内地域
- 比内鶏
- 秋田の地酒

第二次の光 一部の人に深く受け入れられるもの

- 大館
- 曲げわっぱ
- 鶏飯弁当
- ハチ公会館
- レールバイク

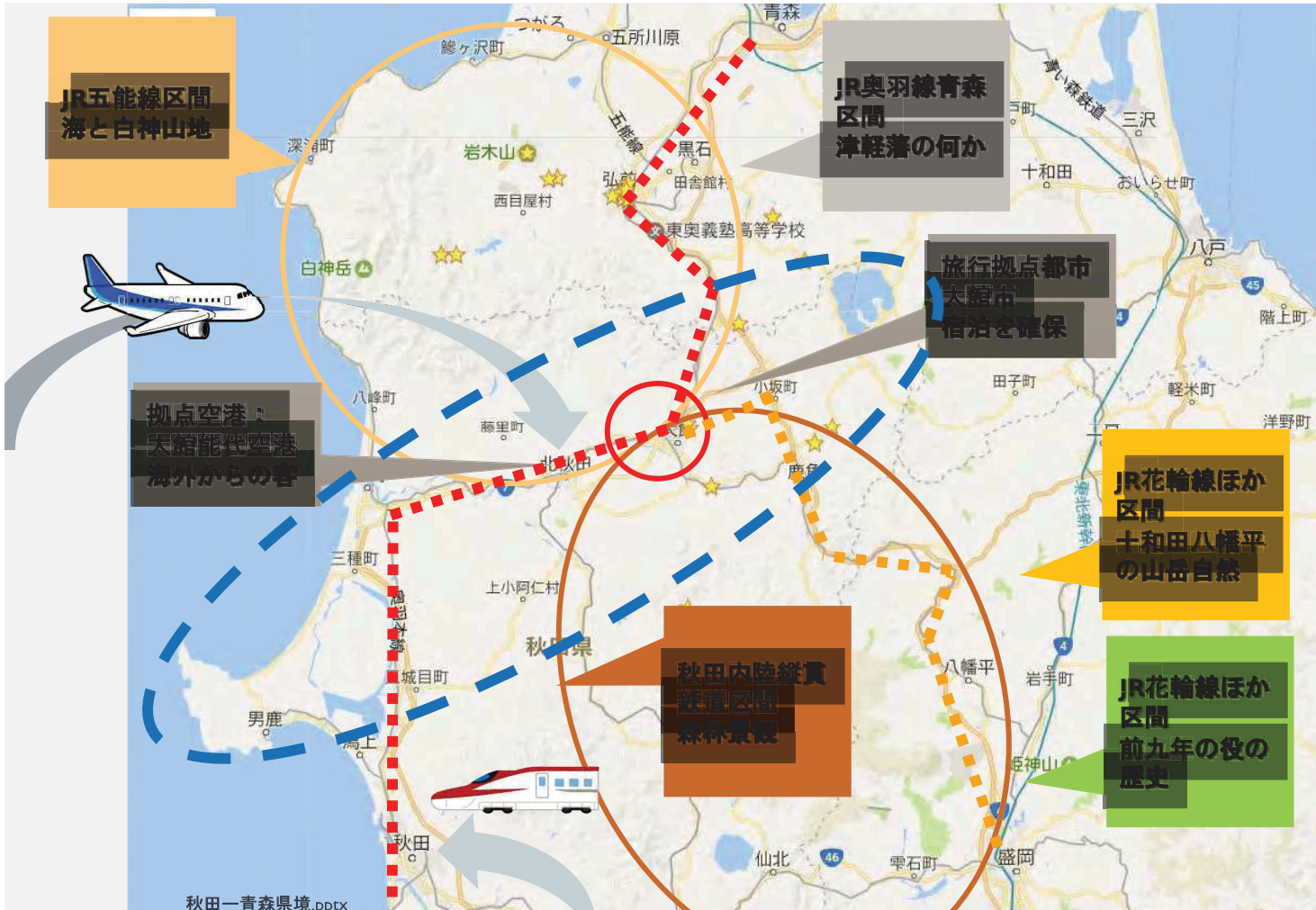
世界に アピールする 秋田づくしのコラボ

- 秋田杉を使った建築
神社は他などで作るのが一般的だが、匠のおかげ？
神明社・八幡神社・料亭
北鹿ハリストス教会・町並み
- 曲げわっぱに入った鶏飯弁当
= 1個5000円 = 食べた後は再使用できる
= 曲げわっぱの片口 + NEXT5
- 秋田犬にふれあえる場
= ここでしか会えない秋田犬
= 秋田杉（CLT）を活用した施設
= 秋田犬のできたわけは？
に答えられるストーリー
- 秋田杉建築条例
公共の建物はすべて秋田杉で建築する
その技術を蓄積していく
= 能代とコラボ？

ハチ公と渋谷駅とを連想するのは、ごく一部の日本人

WG・我々のできることは何か？

- ・首都圏にいるというネットワークを活用する
- ・市町村個々の観光はあるが、相互に連携していないため機会損失をしている。これから各自治体が縮小していく中で、それぞれが個々に観光を考えていてはいけない。
- ・よって、以前提案した8の字連携を実施する。しかしながら、全体ではなく秋田県内の地域の先鋭化を模索する。
- ・具体的には、十和田湖から小坂町、大館市、北秋田市、能代市、大湯村、男鹿市にいたる、湖-山-川-平野-岬-海の広域ネットワークを図る。
- ・この中での、歴史、文化、祭り、農と食、地学地形を通じてそれぞれの観光に生かす連携を図る。



ローカル路線を活用したインバウンド「8字回廊」ツアーの提案

- 又来、又鬼（またぎ）街道：安全な食と温泉を歩く健康への道
- 1) 焼き肉街道：健康への肉食 男鹿だけ魚
ニトレサビリティ可能な地元産肉
 - 2) 食事にマリアージュする酒街道
 - 3) 鍋街道：地元の伝統鍋
 - 4) 温泉街道
 - 5) 歴史と城巡りハイキング街道



北東北歴史懇話会

1. 活動状況

幹事会を年間4回開催

<主なテーマ>

- ・大館におけるシンポジウムの開催について
- ・中世の北秋田・浅利氏について
- ・大館市と山梨県中央市との歴史を通じた交流
- ・北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録の応援

2. 北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群の世界遺産登録の応援

<>

2019年12月20日 ユネスコへ推薦書を提出することについて閣議了解

2020年2月1日まで 国からユネスコ世界遺産センターへ推薦書を提出

2020年9月頃 国際記念物遺跡会議(ICOMOS)による現地調査

2021年夏頃 第45回世界遺産委員会において審議

* 秋田県対象遺跡 大湯環状列石(鹿角市)、伊勢堂岱遺跡(北秋田市)

2020年11月28日(土)に、東京で大会主催によるフォーラム開催予定

3. 2019年度 公開研究会 IN大館 V

日時：2019年10月6日(土) 9時30分～12時30分

会場：大館市立中央公民館

共催：北東北歴史懇話会・北羽歴史研究会

後援：秋田県教育委員会・大館市教育委員会

大館市生涯学習フェスティバル協賛事業

参加者：約80名

基調講演

「考古学と文献からみた

河田次郎一族の成立」

北東北歴史懇話会会長

藤盛紀明

・ルポ報告

「夷弓の森」を語る

北羽歴史研究会副会長

菅原幹雄

・特別講演

「河田次郎を擁護する」

大館市教育長 高橋善之

北鹿新聞



4. 甲斐源氏がつなぐ秋田県大館市・山梨県中央市” 交流講演会 I N東京 テーマ：「源義光とその子孫」

日時：2019（令和元）年12月21日（土）13時—17時30分

会場：東工大蔵前会館 ロイヤルブルーホール

主催：北東北歴史懇話会

（秋田産業サポータークラブ）

共催：秋田県大館市 山梨県中央市

基調講演 「源義光を語る」

東京大学名誉教授 五味文彦

講演者 大館市及び中央市の関係者4名

参加者：約80名



「源義光とその子孫」

甲斐源氏がつなぐ
秋田県大館市・山梨県中央市
交流講演会 I N東京



新藤古神社（源義光 元朝の廟）

ご挨拶 田中 久雄 中央市長
福原 淳嗣 大館市長

基調講演 「源義光とその子孫」
東京大学名誉教授 五味 文彦

講演1 「甲斐源氏と我利我利」
山梨県考古学協会会長 太木 健

講演2 「中央市周辺の中世遺跡・遺物」
中央市生涯教育課 岡野 秀典

講演3 「大館市周辺の中世遺跡・遺物」
大館市歴史文化課 船影 壮豪

講演4 「大館歴史まちづくりと茂利氏・佐竹氏」
大館市まちづくり課 石田 孝志
(敬称略)





日時 令和元年12月21日（土） 13時から17時30分
会場 東工大 蔵前会館 ロイヤルブルーホール
(東急大井町線・日比谷線 大岡山駅3分)

主催：北東北歴史懇話会（秋田産業サポータークラブ）
共催：秋田県大館市 山梨県中央市
後援：中央市歴史文化ボランティアの会 中央市山梨県人会
北羽歴史研究 首都圏大館ふるさと会
ふるさと比内会 東京田代会
東アジアの古代文化を考える会 考古学を科学する会
えみし学会 全国群馬台国連絡協議会 群馬台国の会

お問い合わせ先：03-6914-6700（各連絡先よりお問い合わせ）

事前申込不要
先着120名

入場無料

食と美と健康WG

活動報告2019

2019/02/03
千葉 良子
ホテルモントレ半蔵門

テーマ

食

美



地域資源を活かす



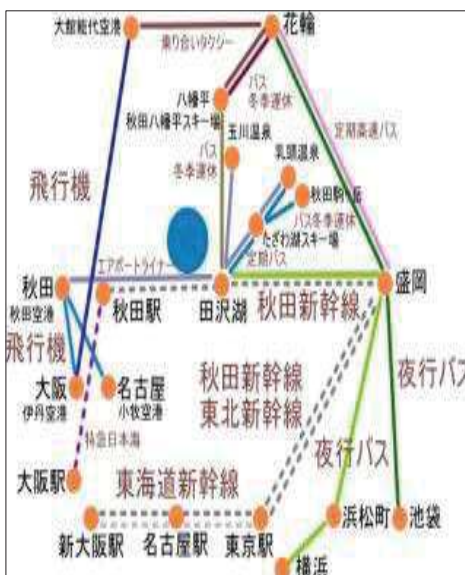
健康サポートビジネス

目標

- 秋田八幡平温泉郷プロジェクト
（お土産、二次交通）
- 秋田の伝統野菜をPR

活動と成果

- 会議（計5回）
 - ◆5月20日、6月30日、9月13日、11月22日、1月24日



食美健WGメンバー

◆主査 千葉

◆幹事 佐藤（健）

◆顧問 藤盛

◆ 2019年度・秋田八幡平温泉郷プロジェクト

・ お土産部会・・・ 西野・阿部・千葉

・ 二次交通部会・・・竹内・佐野・辻・米田

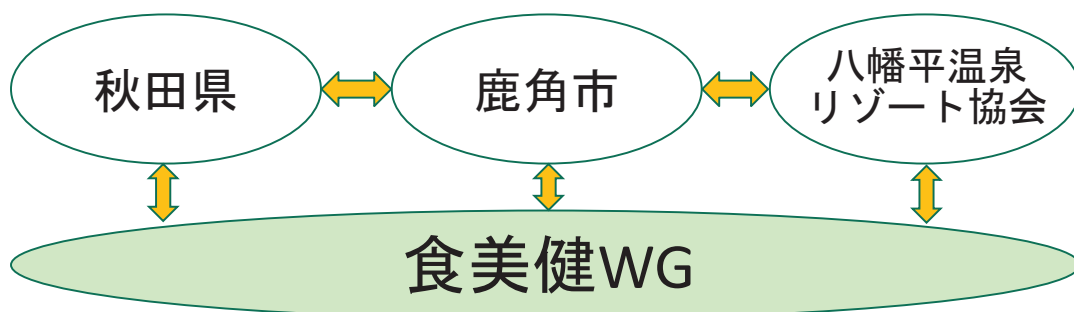
・ 伝統野菜・食材アピール部会・・・佐藤・草刈・佐々木・喜藤・下田・藤盛（彰）

藤盛	千葉	阿部	喜藤	成田	辻	米田	今野	高橋
佐藤	佐々木	草刈	下田	藤盛(彰)	上田	原田	村本	山本
三宅	出茂	小熊	竹内	照井	若山	西野	山下	平栗

2020年度にむけて

● 秋田八幡平温泉郷プロジェクトを推進する

◆ 県・地元自治体・関連団体との連携

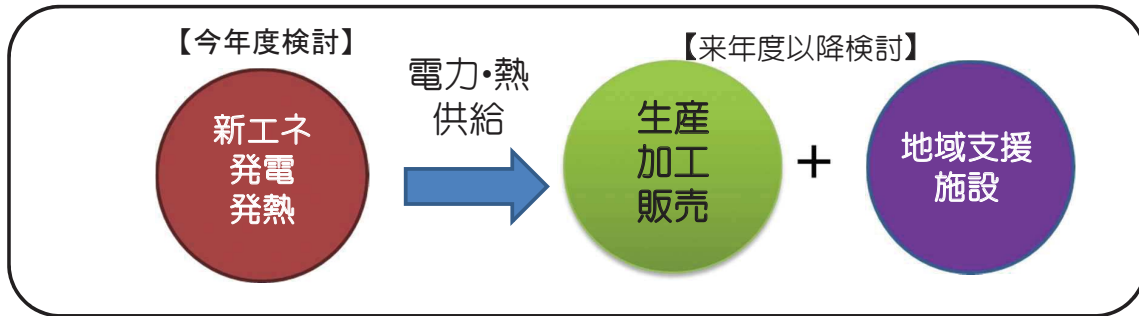


○ 伝統野菜のPR

秋田産業サポートクラブ
新エネルギー地産地消WG
令和1年度 中間報告

令和2年2月3日
主査 加賀谷健治

1. 目的：新エネルギー地産地消で地域の活性化



地元資本で地域経済の循環増大

地場特産品生産・加工・販売で地場産業の振興

「新エネルギー地産地消コンビナートまたはクラスター」の実現！

1

2. 新エネルギー発電導入は社会の要請

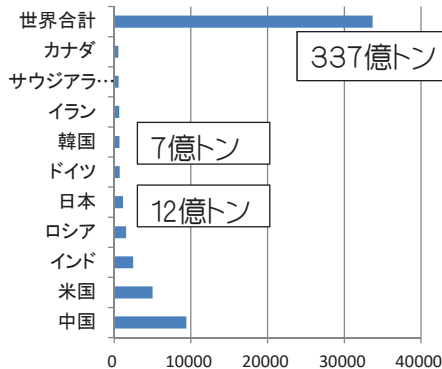
1) SDGsの高まりで新エネルギー導入促進

(1) 地球温暖化効果ガス(CO2)排出で、生命絶滅の危機

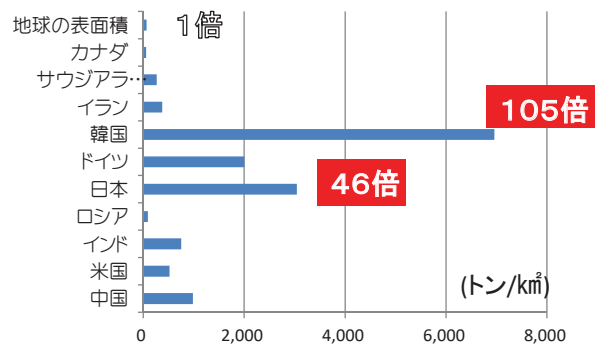
大気・海水温上昇、陸地の水没、風水害の過激化など。

(2) CO2の排出(2016年)

①日本のCO2排出量世界で5番目



②日本の上空濃度は地球平均の46倍



③CO2排出の半分は発電用燃料

日本の発電エネルギー割合

化石燃料			原子力	再エネ	
LNG	石油	石炭		水力	新エネ
83.7%			1.7%	14.6%	
42.1%	9.3%	32.3%		7.6%	7.0%

④再生エネルギー導入目標

パリ協定実現のため2030年までに

- 日本: 22~24%
 - IEA: 49%必要と勧告
- IEA:国際エネルギー機構

2

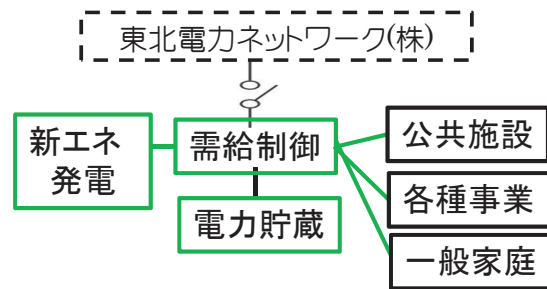
2) 地域分散型エネルギーシステム(マイクログリッド)導入を国が支援

【期待する効果】

- ①地球温暖化対策
- ②地域経済・産業の活性化
- ③災害時の地域エネルギー供給

【支援】

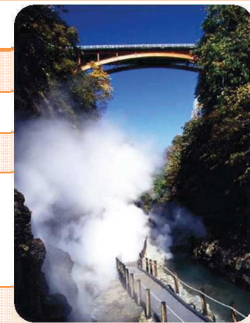
- ・経済産業省
- ・環境省



3. 県内地域で実現できる再生可能エネルギー

1) 小規模地熱発電

- (1) 既存温泉を利用した、100KW以下の小規模地熱発電。
- (2) 発電電力と、熱水を利用できる。
- (3) 建設期間は、1~2年。
- (4) 先行事例
 - ①洞爺湖温泉バイナリー発電所(72KW)
 - ②小浜温泉発電所(雲仙温泉)(135KW)
- (5) 建設は1億円程度
- (6) 秋田県内での実施可能地
 - ①湯沢市秋の宮温泉
 - ②鹿角市八幡平温泉
 - ③大館市大滝温泉



3

2) 中小水力発電

- (1) 農業用水路、一般河川、ダム維持放流などを利用する2000KW以下の発電。
- (2) 農業用水路小発電は、秋田県農村振興課が普及を支援。
- (3) 先行事例
 - ①岐阜県郡上市石徹白(いとしろ)地区(116KW)
 - ②長野飯田市上村(かみむら)地区(199KW)
- ★2件とも過疎地の持続対策。
- (4) 建設費は数百万円~数億円
- (5) 秋田県内での実施可能地(農業用水路)
 - ①湯沢市山田幹線用水路(16KW)、②皆瀬6号幹線用水路(16KW)・・・通水365日可能
- (6) その他
 - ①秋田市「東北水力発電」は、プリウスの電源を再利用し、低価格「小水力発電機」を開発。
 - ②WGメンバーは、家庭でも使用できる「マイクロ発電機」を開発中。



3) 太陽光発電

- (1) 太陽光エネルギーを電力に変換。
- (2) 日照変化による出力変動が多い。
- (3) 先行事例:メガソーラ~家庭用迄多数あり。
- (4) 事業規模:数十万円~(近年機器の価格低下が激しい)
- (5) 秋田県内での実施可能地:県内全般
- (6) その他
 - ①WGメンバー(株)アイジャストで、可搬型太陽光+蓄電池「DenkiBank」を販売。
 - ②FIT契約切れの家庭用などの電力を集めて「マイクログリッド」に活用することができる。



4

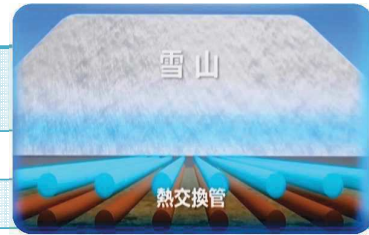
4) 木質バイオマス発電・発熱

- (1) 森林間伐材、残材、製材所端材などを燃料とする。
- (2) エネルギー：①電力、②排熱水、③チップ・ペレット(燃料)
- (3) 特徴：電力、熱水の安定供給可能。
- (4) 先行事例：①能代バイオ発電所(3MW) ②マイト「リニューアブルエナジー」(20MW)
③大仙バイオエナジー(6.3MW) ④北秋田市「道の駅たかのす」(1基40KW×2台)
- (5) 事業規模：数千万円～数十億円
- (6) 秋田県内での実施可能地：燃料を供給する県内12か所の森林業組合毎に設置。
- (7) その他：①燃料の長期安定供給のため、林業の強化が必須。
②実行率15%の徐間伐を適正化。
③一般家庭の化石ストーブを木質ストーブに転換。



5) 雪氷(データセンターに利用)

- (1) 道路の除雪で生じる雪を集積貯蔵し、夏季に利用。
年間1億円程度の電力料金削減できる。
- (2) エネルギー：冷水、冷風
- (3) 特徴：厄介な積雪を宝に変える。
- (4) 先行事例
①「青森クラウドベースデータセンター(六ヶ所村) ②「新潟・長岡データセンター」
- (5) 事業規模:数十億円～
- (6) 秋田県内での実施可能地：①県内豪雪地帯で、空港、新幹線駅の近く。



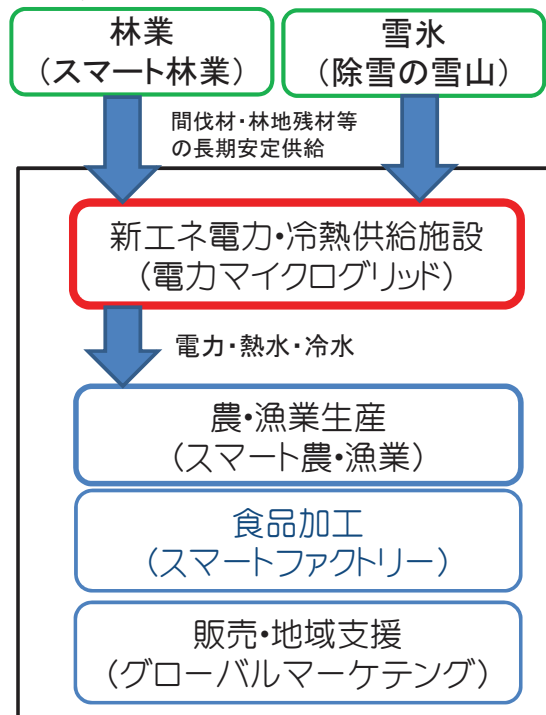
4. 「第2期あきた未来戦略(仮称)」を「新エネルギー地産地消」で実践を!

第2期秋田未来戦略(仮称)

1. 産業振興によるしごとづくり
 - (1) 地域産業の競争力強化
 - ◆ Society5.0の実現に向けた先進技術の導入
 - ◆ 成長産業の振興
 - ◆ 多様な人材が活躍できる環境の整備
 - (2) 農林水産業の成長産業化の促進
 - ◆ 先端技術の活用による次世代型農林水産業の確立
 - ◆ 農業労働力の安定確保と日本一の産地づくり



官・産・学 総力を結集し
秋田産業のイノベーション



新エネルギー地産地消
コンビナートまたはクラスター